令和4年度　大田区立大森第三中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

◆教育目標　社会の一員としてたくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成をめざし、以下の目標を掲げる。
○人権尊重の精神と態度を育てる。 ○豊かな情操と健全な心身を育てる。 ○自主性を伸ばし創造性を育てる。 ○自ら進んで学ぶ態度を育てる
◆学校規模　生徒数484名、学級数15学級
◆本校特色 ○地域行事・ボランティア活動参加（新井宿福祉園運動交流会、ガーデンパーティ、日赤フェスタ、ユニバーサル駅伝伴走、新井宿児童館親子デー、自治会連合運動会、山王三・四丁目自治会子どもまつり・防災祭、入二小フェスタなど）
○生徒会や各種委員会を中心とした生徒主体の活動（生徒会朝礼、SNS学校ルール策定、いじめ撲滅運動、学校行事や学年行事での実行委員会組織による企画・運営など）
○学校運営協議会を中心とした学校・地域協働体制による、学校運営の基本方針の承認や、課題解決に向けた検討等学校運への参画
○スクールサポート三中を中心とした学校支援のコーディネートによる充実した教育活動の展開（図書室ボランティア、職業講話講師、職場体験受入先、土曜補習教室講師、部活動支援、英語検定、漢字検定試験監督、ガーデニング）

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	取組評価（上段 今年度／下段 昨年度）	目標に対する成果指標	成果評価（上段 今年度／下段 昨年度）	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	○	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3 4	4：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ80%以上。 3：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%以上。 2：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%未満 1：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ40%未満	4 4	未来社会を創造的に生きる子どもの育成にむけて、ICTの活用については高い評価となっている。生徒用タブレットの導入と授業のリモート配信など、教員が配備されたICT機器を活用して、効果的な学習指導に生かそうとして実践している結果が表れており、日々実践を重ねている。令和4年度は、教育委員会訪問などの機会でも、ICTの活用場面については披露することができ、本校の取組は高い評価を得ている。授業の活用を通して生徒により分かりやすい授業の提供を継続して実施し、分かりやすい授業をしているとの生徒および保護者の肯定的回答は90%超であった。また、タブレットの使用が学習内容を分かりやすく理解できると回答した生徒は80%超と授業での活用には肯定的にとらえている。そうした状況を踏まえ、これからもタブレットの効果的な活用については、実践と研修を継続していく。さらに、まなびポケットなどの効果的な活用により、配布物や連絡事項、アンケートなどにICTを活用することができ、学校と家庭、生徒とのつながりのICT化を推進することができた。今後、生徒のタブレットの使用のきまりなどについては、生徒会も巻き込んで生徒の主体的な取組として作成し、生徒の意識に働きかけていくことが課題である。人権教育については、道徳授業地区公開講座を実施し、保護者、地域の方に学校の人権教育の一端を参観していただく機会を得た。また、人権教育については生徒の90%が肯定的にとらえている状況であり、こうしたことを踏まえて道徳の授業を計画的に実施することとともに、道徳の授業を要として学活や総合的な学習の時間や教科指導において人権教育を推進し、他者を尊重する思いやりを育む指導を推進していく。	A	9	ICTを活用したわかりやすい授業と、ICT機器の積極的な活用に取り組んでいます。学習にとても役立っているようです。今後も先進的な取り組みを続けてほしいです。 人権教育については、多様性が広がる中、時代に合った価値観を生徒達が身に付けられるよう、道徳の授業を中心として、学ぶ機会を増やしていただきたいです。思いやりを育む指導は、すべてのことに通じます。頑張ってください。また、移動教室や社会科見学等は生徒自ら計画を立て、チームを組み、意見交換を行いながら、取り組めていました。
								B	0	
								C	0	
								D	0	
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 基礎基本的な学習内容を確実に定着させるため、精選した課題を与えて家庭学習時間の増加を促す。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4 4	4：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ80%以上	3 3	学習カルテを三者面談で活用して、生徒の学習の定着や理解について保護者と共通理解を図ることができた。そして、区学習効果測定の結果や教科の評定、各教科からのアドバイスや数学チェックシート等を資料として活用して保護者・生徒にとって学習への取組を振り返り、改善を図る機会とすることができた。評価については定期テストのみの評価とするのではなく、生徒の成長を見通した多面的な評価を行うようにしている。その結果、生徒からさまざまな面で評価してくれているという設問に85%が肯定的評価を回答した。家庭学習を大切にしているでは82%が、宿題や課題などの提出物には気を付けるでは93%がそれぞれ肯定的に回答し、前向きに取り組んでいることが表れている。しかし、学習効果測定の結果全校平均正答率は62.4%と区の平均を若干下回り、達成率は64.9%となっている。生徒の学習の理解度はアンケートではおおむね達成しているが、実際の定着度はもう一歩である。また、全国学力調査や学力向上を図るための調査の結果を分析して、経年比較を教員に提示など結果の分析も取り組んでいる。こうした取組を通して、本校の課題である学力の定着にむけて、基礎基本の定着と思考力を育成する指導に力を入れて、授業改善を図る取組みを継続して、生徒の学力の向上を推進する。	A	6	基礎基本の定着、家庭学習の習慣定着への取り組みを今後もお願いします。「予習して授業に臨む」「復習して定着させる」を継続し、楽しく学習できるようになるとよいです。区の平均を目指してがんばっていきましょう。評価については、生徒のさまざまな面を見ていただいています。定期考査だけでなく小テスト・提出物にも積極的に取り組むようになってきました。自分が予想していた評価と違った点については細かく説明をうけることができ、先生への信頼が厚くなったと思います。学習カルテの活用による今後の継続した取組で、家庭との連携を進めてください。
					3：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%以上			B	3	
					2：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%未満			C	0	
					1：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ40%未満			D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 不登校出現の未然防止を図るとともに、不登校問題に係る取組を実施し不登校傾向を示す生徒の学校復帰率を伸ばす。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3 4	4：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が80%以上	3 3	本年度よりWEBQUとなり、「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答は90.1%であった。しかし、学級生活で満足している割合は、52.9%であり、今後の生にとって居心地のよい環境づくりは大切である。こうした学校生活についての調査をもとに、学級ごとの状態について夏休み等で学年会を行い、学年で共通理解を図り指導に反映することで、各学年の学年学級経営を見直し、ている。また、いじめ調査やふれあい月間等の取組を通して、生徒の実態を把握し問題を抱える生徒に対して個別の支援が行えるよう取り組んでいる。学校が落ち着いた状態であるに対しては、生徒の73.6%が肯定的に回答し、昨年度より6.8ポイント上昇している。しかし、個々の生徒の課題については深刻な面もあり、個別対応が迫られるケースが多くあった。さらに、不登校生徒についても学校の課題である。本年度の不登校生徒出現率は6.39%であり、昨年度より1.44ポイント上昇している。東京都の出現率が5.76%であり本校は6.3ポイント上回っている。個々の生徒の状況はさまざまであるが、精神面では医療、家庭環境面では子ども家庭支援センターやSSW、児童相談所などの外部機関や児童委員など地域との連携が欠かせない。こうした連携を保ち機能させるために、支援委員会を定期的に実施し、学年・学校の共通理解を推進して、組織的に対応する。さらに、別室対応や登校時間の柔軟な対応、登校支援員の活用など今後も取り組んでいく。また、日ごろの教育活動において、教育的予防に重点をおき、学校組織全体で不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図る。	A	8	不登校生徒の減少にむけて、毎月の支援会議やケース会議を行い、学校復帰に向けて各関係機関とも連携してしっかりとした取り組みができていると思います。登校支援員の活用なども今後充実を図ってほしいと思います。2月からは民生児童委員も多数参加しています。たくさんの人達が理解し、向き合うことによって一人でも多くの子供たちが登校できるよう、みんなで見守ることが大切です。コミュニケーションでは、自分を認められるとともに、他者を認められる寛容な心も必要です。学校で、授業・HR・部活動などで何か一つでも得意な事、楽しいことを見つけてほしいと思います。
					3：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%以上			B	1	
					2：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%未満			C	0	
					1：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が40%未満			D	0	
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4 4	4：生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が80%以上	4 3	生徒の86%が「運動やスポーツを通して体を動かすことは楽しいと思う」に肯定的に回答している。昨年度より3ポイント増加している。保健体育の授業以外でも、運動会などでは学校全体で指導に関わるので、全校的な体育的指導につながっている。今年度は5月に実施した運動会で、保護者への公開も実施できている。生徒だけでなく保護者地域にとっても運動の大切さを認識する機会とすることができた。また、基本的生活習慣の定着・促進にむけては、早寝早起き朝ごはん運動に全校で取り組み、生活リズムの大切さの意識を高める機会とすることができた。教科での補強トレーニングや、一校一取組に全教員が関わることを通してさらなる健康・体力向上を図る。	A	8	運動会を保護者に公開できたことがよかったです。保護者席の確保など工夫されていました。競技に熱心に取り組む姿、友人を励ます姿、クラスの結束も高まったようでした。思いやり、優しさ、チームワーク、すべてが大切です。この機会に自己肯定感が高まるとよいです。今後に期待します。また、部活動の生徒たちの挨拶も素晴らしい。給食時の音楽も素敵です。「早寝・早起き・朝ごはん」は引き続き、力を入れてください。朝食を摂らない家庭が増えています。家庭とも連携して生活習慣については食育の推進を続けていただきたいです。体育の共修は、先生の工夫により、生徒もすぐ慣れたようでよかったです。
					3：生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が60%以上			B	1	
					2：生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が60%未満			C	0	
					1：生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」で肯定的な回答が40%未満			D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4 4	4：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに80%以上。	4 4	「わかりやすい授業が多く満足している」と肯定的回答した生徒は、94.7%と昨年度より2.3ポイント上昇している。授業改善とともにICT環境の整備と活用が成果につながっている。また、区学習効果測定や全国学力調査、学力向上調査などの結果を分析し、授業改善に生かす。さらに、今年度これまでに年間4回の授業公開を行っており、授業の様子を保護者にも公開している。その結果保護者の肯定的回答は93%と昨年度から28ポイントと大幅増となった。実際に教育活動を見る機会を得て保護者も満足感が上がっていると考えられる。評価については、主体的で対話的で深い学びを目指した評価となるよう、生徒の学習活動を多面的にとらえて評価につなげていくよう研修をすすめる。学習環境の満足度として、「学校生活に満足している」の肯定的評価が93.6%と高く、さまざまな学習活動に充実感を得ている。土曜補習教室への参加生徒数は回数ごとに減少しているが、長期休業を中心に学年での学習補習教室も実施しており、より多くの機会を提供できるよう努めていく。	A	8	合唱コンクールや学校公開では多数の方が来校した1年だったと思います。授業公開に出席し、生徒全員が前向きに授業に取り組んでいる様子がわかりました。タブレット等の活用によって、学習習慣の向上もみられたのではないかと思います。わかりやすい授業が多いという回答は授業が楽しいに通じ安心したとともに、生徒が学ぶ楽しさを実感できるとよいと思います。コロナ明けで、保護者が学校に関われるようになり、関心の高さがうかがえます。生徒の作品・掲示物を見て、学校での様子をうかがうことができ、成長を感じることができました。土曜補習教室への参加者のことは、今後の課題です。
					3：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%以上			B	1	
					2：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%未満			C	0	
					1：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに40%未満			D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 生徒がJRCだけでなく様々なボランティア活動に参加するよう促す。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4 4	4：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が90%以上	4 4	学校運営協議会は2年目となり、学校経営への参画、学校の教育活動の把握、行事への参観と協力と活動することができた。そして、学校教育について適正に評価いただく機会をもつことができた。また、学校支援地域本部としてのスクールサポート三中と緊密な協力体制を構築し、今年度も年間6回の土曜補習教室の実施や、職場体験活動の事業所開拓、校内清掃活動などさまざまに協力いただくことができた。コロナ禍も対応が定着しつつあり、ボランティアについても復活してきている。毎週1回の公園ボランティアはJRC部を中心として継続して実施することができた。そして秋から、地域の運動会やイベントの手伝いなどを行い、毎回多くの生徒が参加することができた。「地域のボランティアに参加し、貢献しようとしている」の肯定的回答は61.2%であり、昨年度より13.9ポイント増加している。今後の地域との連携をさらに深めていく。なお、「学校は教育活動の様子を伝えている」について肯定的に回答した保護者の割合は97.6%と5.7ポイント上昇している。日頃の様子については、学校だより、緊急メール、ホームページなどを活用して伝えている成果と考えられる。しかし、「学校からの配布物等が保護者にわたっている。」への肯定的回答は66%であり、生徒の提出物についての意識を高めるよう学校だけでなく家庭での働きかけも課題となっている。もまた、今回学校教育生活アンケートをICT化するなど、さらなる活用も探っていく。	A	8	ボランティア活動といえば、三中となるようにこれからも地域と学校を繋いでいきたいです。地域との関係はとても良いと思うので、一人でも多くの生徒がボランティアに参加し、地域のこと、大きな力になることを感じ取ってほしいです。コミュニティスクールの導入により、地域と学校が一体となり、学校運営協議会・スクールサポート三中の活動をより充実させていきたいです。現在の様子は、地域と学校が一体となり、教職員全体とともにより一層生徒の健全育成に取り組めていると思います。コロナ禍が収まりつつある中、これからも学校運営協議会・スクールサポート三中の活動をより充実させていきたいです。
					3：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%以上			B	1	
					2：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%未満			C	0	
			4：のべ参加生徒数が495人以上であった。 3:のべ参加生徒数が400人以上495人未満であった。 2：のべ参加生徒数が300人以上400人未満であった。 1：のべ参加生徒数が300人未満であった。	3 1	1：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が40%未満			D	0	